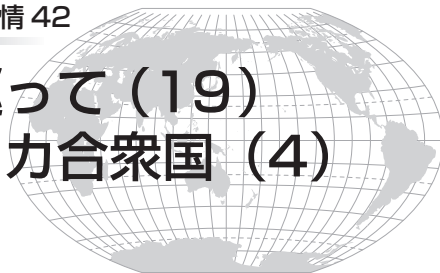


●グローバル化時代の医療・検査事情 42

世界の医学部を巡って (19)
IV 北米編 アメリカ合衆国 (4)

な ら のぶ お
奈 良 信 雄
Nobuo NARA

6. サンフランシスコ

⑤カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF)

サンディエゴから西海岸に沿って北上し、約2時間弱のフライトでサンフランシスコ空港に到着した。サンフランシスコでは、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (University of California, San Francisco: UCSF) を視察する予定だった。

UCSF は 1864 年に創立された州立大学医学部である。1849 年、ゴールドラッシュでカリフォルニアに来た外科医 Hugh Toland は外科医療を行い、1864 年に私立の医学校を創設した。その後 UCSF は発展を遂げ、190 校以上の医学校があるアメリカでも、先頭を走る有数の医学部と言って良い。

医学部と大学附属病院は立派な施設が整い (写真1)、大学病院は全米のトップ10の病院にランクされ、特に神経内科、神経外科領域では全米第1位とも称されている¹⁾。ノーベル賞受賞者も5名輩出している。



写真1 カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) 医学部

地域住民の健康を守り、疾病を治療できる21世紀の医師に相応しいコンピテンシーを教育することを医学部の使命としている。卒業時までには修得しておくべきコンピテンシーとして、①患者ケア、②医学知識、③実践に基づく学修、④コミュニケーションスキル、⑤プロフェッショナリズム、⑥系統立てた医療実践、⑦多職種連携を掲げている。

サンフランシスコ市内の Parnassus Heights, Mission Bay, Mount Zion, Laurel Heights などにキャンパスがあり、さらに UCSF Benioff Children's Hospital Oakland, San Francisco VA Medical Center などの多数の施設や研究機関などとの連携を図っている。

2019 年の入学志願者は 7,846 名で、一次選抜で 468 名に絞られ、面接試験によって 155 名が入学している。入学者の平均年齢は 24 歳 (最高 35 歳) で、女性が 52%、カリフォルニア州出身が 77% を占める。アジア系 29.1%、白人 26.4%、ヒスパニック/ラテン系 19.3%、黒人 10.3%、その他で、学生の人種は多様である。

患者の人権を守ることは、“ヒポクラテスの教え”を待つまでもなく、医師のプロフェッショナリズムとして極めて重要な基本事項だ。UCSF でも医学部の入り口付近にしっかりと刻み込まれており、否が応でも毎日学生の目に触れるようになっていた (写真2)。

さて、アメリカの医学部教育制度は朝令暮改とまではいかずとも、変化が実に目まぐるしい。少しでも先進的な取組みを導入し、他の医学部を出し抜こうとする意識がありありと伺える。実際、UCSF に



写真2 医学生の心構え (UCSF 構内)

は2010年と2013年の2回訪問したが、たかだか3年の間で教育プログラムは大きく変貌を遂げていた。

かつては、アメリカの医学部では、4年間のうち、2年間は基礎医学教育と臨床医学教育が行われ、次いで医師国家試験 USMLE step 1 合格後に2年間のクリニカル・クラークシップが実施されてきた。しかし、臨床医としての技能を確実に磨くには2年間の臨床実習だけではもはや不十分であるとの意見が大勢を占めるようになり、現在では多くの医学部で2年以上の期間を充てている。大雑把に言って80週以上が臨床実習で、大学附属病院だけでなく、学外の実習病院で臨床実習を受けるシステムになっている。

臨床実習前の教育が短縮されることに不安はないのか、医学部長に尋ねた。すると、基礎医学と臨床医学を統合して教育することにより、効率よく、かえって教育成果も向上してきたとの明快な回答だった。すなわち、従来2年間かけて教育されてきた基礎医学と臨床医学は垂直統合され、器官ごと、たとえば循環器、消化器などのブロック制がしかれ、解剖学、生理学、生化学、病理学、内科学、外科学、小児科学などが臓器別の各8週間単位の中で統合して教育されることで、学生の学修を促進しているようだ(表1)。

「基礎医学の理論を理解するための基礎医学教育」でなく、臨床医学を理解し応用させるための基礎医学教育が目的とされる。しかも、臨床医学を学ぶ上でも、常に基礎医学を基盤にしているという。たとえば、生化学が学生にとっては難解とされるが、内分泌・代謝疾患等を理解するために基本的知識として教育することが学生に理解を促している。肝疾患にしても、解剖学、生理学、生化学、病理学等の知

表1 1～2年次教育の特徴 (UCSF の例)

-
- 基本構造：器官別統合型(約8週間ずつ)
例)心疾患のブロックでは、心臓の解剖、生理、病理、疫学などがcaseに応じてPBL形式で実施。1年生のチューターは4年生！(Teaching is learning)
 - 小人数のアクティブ学習主体。大半はPBLテュートリアルで、講義は50%以下。1グループ8名(20グループ)
 - 講義は最小限。講義をしても学生はほとんど出席しない。講義はWebでみることができる。
 - 基礎医学教育は減。解剖学も肉眼解剖は少なく、バーチャルを活用。生理学、生化学、薬理学などもPBLの中で行う。
 - PBLはcase-based
-

識を駆使してこそ、理解が深くなる。こんな考えに基づく教育システムだ。

さらに、教員が学生に対して一方的に教えるのではない。教員は学ぶべき内容を盛り込んだシナリオを提示し、それに則って学生自らが学び、互いの議論を通じて学びを高める。このための教育技法が問題解決基盤型学修(Problem-based learning: PBL)やチーム基盤型学修(Team-based learning: TBL)だ。UCSFでは講義が残ってはいるが、それはわずかで、ほとんどがPBLに移行している。学生が能動的に学ぶことが重視され、他の学生に負けまいと、学生自身が懸命に予習してくるので効果が上がると期待されている。

PBLなりTBLでは6～8名前後の学生がグループを作って学修しあう。なお、思わず“学修”という言葉を使ったが、“学習”ではないかと、不思議に思う向きがあるかもしれない。先生が学生を教える初等中等教育ならいざ知らず、能動的教育を主にした高等教育では、“学修”と表す。そもそも教育という言葉は、孟子の「得天下英才、爾教育之」に由来する。つまり、「教え、育む」との教えで、師が弟子を育てることが東洋の伝統だった。師の背を見て育つわけだ。

しかし、英語のeducationは、それほど単純ではない。僕もそれまで誤解していて、能動的学修を推奨する世界医学教育連盟(WFME)がeducationという表現を使用しているのは如何なものかとWFME会長に質問した。それに対し会長は、「educationという言葉は、teachingとlearningを併せた概念だ。お前は大きな誤解をしている。」と来た。つまり、日本ではeducationを「教育」と訳しているが、これは狭い概念の東洋思想にとらわれた誤訳だと思

UCSF School of Medicine Academic Planning Guide 2021-2022

Quarter	Date	Class of 2025			Class of 2024			Class of 2023			Class of 2022					
Summer 2 Q	7/26/21 - 7/30/21	Vacation			Vacation/Inquiry			Foundations 2: Block 4			Career Launch: Block 5					
	8/2/21 - 8/6/21	Launch														
	8/9/21 - 8/13/21	CIC	IDS 121A Ground School	CMC	CIC	IDS 122A Life Stages	CMC	IDS 117B ARCH 6		IDS 117D ARCH 8						
	8/16/21 - 8/20/21															
	8/23/21 - 8/27/21															
	8/30/21 - 9/3/21															
9/6/21 - 9/10/21	IDS 121A ARCH 1						Foundations 2: Block 5			Career Launch: Block 6						
Fall Q	9/13/21 - 9/17/21	CIC	IDS 121B ABC 1	CMC	CIC	IDS 122B BMB	CMC	Longitudinal FCM 110/IDS 113 FS-in-F2		Career Launch: Block 7						
	9/20/21 - 9/24/21															
	9/27/21 - 10/1/21															
	10/4/21 - 10/8/21															
	10/11/21 - 10/15/21	CIC	IDS 121B H&I	CMC	CIC			Foundations 2: Block 6		Career Launch: Block 8						
	10/18/21 - 10/22/21															
	10/25/21 - 10/29/21	CIC	IDS 121B ABC 2	CMC	CIC	IDS 122C DR	CMC	Foundations 2: Block 6		Career Launch: Block 9						
	11/1/21 - 11/5/21															
	11/8/21 - 11/12/21	IDS 121B ARCH 2			IDS 122B ARCH 4					Foundations 2: Block 6						
	11/15/21 - 11/19/21	Winter Break			Winter Break											
	11/22/21 - 11/26/21	IDS 123A Inquiry Immersion			Winter Break											
	11/29/21 - 12/3/21															
	12/6/21 - 12/10/21	IDS 121B ARCH 2			Winter Break			Winter Break								
	12/13/21 - 12/17/21	Winter Break			Winter Break			Winter Break								
12/20/21 - 12/24/21	IDS 123A Inquiry Immersion			Foundations 2: Block 1			Licensing Exams									
12/27/21 - 12/31/21	IDS 121C REGN			Foundations 2: Block 2			IDS 119 Intro to Career Launch / IDS 120 DCR									
Winter Q	1/3/22 - 1/7/22	CIC	IDS 121C REGN	CMC	CIC	IDS 121C H&S	CMC	Career Launch: Block 1		Career Launch: Block 10						
	1/10/22 - 1/14/22															
	1/17/22 - 1/21/22															
	1/24/22 - 1/28/22															
	1/31/22 - 2/4/22	CIC	IDS 121C H&S	CMC	CIC	IDS 121D PHD	CMC	Career Launch: Block 1		Career Launch: Block 11						
	2/7/22 - 2/11/22															
	2/14/22 - 2/18/22															
	2/21/22 - 2/25/22															
	2/28/22 - 3/4/22	CIC	IDS 121D PHD	CMC	CIC	IDS 121D ARCH 3	Career Launch: Block 1		Career Launch: Block 12							
	3/7/22 - 3/11/22															
3/14/22 - 3/18/22																
Spring Q	3/21/22 - 3/25/22	Vacation			IDS 117A ARCH 5			IDS 117C ARCH 7								
	3/28/22 - 4/1/22	CIC	IDS 121D PHD	CMC	CIC	IDS 121D PHD	CMC	Career Launch: Block 2		IDS 115 Coda						
	4/4/22 - 4/8/22															
	4/11/22 - 4/15/22															
	4/18/22 - 4/22/22															
	4/25/22 - 4/29/22	IDS 121D ARCH 3			Foundations 2: Block 3			Career Launch: Block 3								
	5/2/22 - 5/6/22	CIC	IDS 121D PHD	CMC	CIC	IDS 121D PHD	CMC	Career Launch: Block 3								
	5/9/22 - 5/13/22															
	5/16/22 - 5/20/22															
	5/23/22 - 5/27/22															
Summer 1 Q	5/30/22 - 6/3/22				Foundations 2: Block 4			Career Launch: Block 4								
	6/6/22 - 6/10/22															
	6/13/22 - 6/17/22															
	6/20/22 - 6/24/22															
	6/27/22 - 7/1/22															
	7/4/22 - 7/8/22															
	7/11/22 - 7/15/22															
	7/18/22 - 7/22/22															
	7/25/22 - 7/29/22															

Legend: ABC, Airway, Blood & Circulation; ARCH, Assessment, Reflection, Coaching & Health; BMB, Brain, Movement & Behavior; CIC, Core Inquiry Curriculum; CMC, Clinical Microsystem Clerkship; DCR, Designing and Conducting Clinical Research; DR, Diagnostic Reasoning; F1, Foundations 1; F2, Foundations 2; H&I, Health & the Individual; H&S, Health and Society; IDS, Interdepartmental Studies; PHD, Pathogens & Host Defenses; REGN, Regulation, Endocrine, GI & Nutrition; SPAN, Specialty Practice in Ambulatory Sub-Internship

図 1 UCSF 医学部カリキュラム構成

う。そう言われれば、「教育」という表現よりも、「学修」という言葉の方が、現在の医学教育に相応しいのではないだろうか。

PBLを重視するとすれば、相当な数のチューターが必要になる。UCSFの一学年は160名ほどなので、1グループの学生数が8名としても、最低でも20名のチューターが必須になる。いくら教員数が多いと言っても、チューター数は十分に足りているの？ またまた愚問を發した。

これに対し、「1年生のグループのチューターは4年生だ。」と、意外な答えがきた。臨床実習で多忙なはずの4年生に聞いてみると、知識の上積みになって自分たちの勉強になると。1年生に聞くと、身近な先輩に教わるのは有意義だと。一方では、4年生をやり込めようとする意識も働き、4年生は4年生で振り返りにせんとばかり、切磋琢磨によって精進する。このようにテュートリアル教育が相乗効果を生んでいるようだ。

そう言えば、クリニカル・クラークシップでも、学生とインターンがペアになり、それをレジデント、さらにアテンダントが指導する。つまり、段階的な指導体制だ。指導者は学生に次々に質問を飛ばし、学生は学生で先輩に泡を吹かせんとばかり、躍起に返答する。“教え魔揃い”のこの国では、“沈黙は金なり”という言葉なぞ通用しない。良い意味でのライバル心が互いの学修意欲を高めているようだ。このような臨床実習方式を、わが国では“屋根瓦”方式と称しているが、実際に臨床実習の現場で機能しているかどうか疑問が残る。

そして、医学部教育の集大成ともいえる臨床実習は、クラークシップとして、2年以上かけてしっか

りと行われる（表2）。

臨床技能を高めるには、real patientsに接する前に、シミュレータを使ったトレーニングを受ける必要がある。UCSFにも立派なシミュレーション教育センターが整えられていた。センター内には高機能のシミュレータが設置され、シミュレーション実習の様子は中央のコントロール室でしっかりモニターされていた（写真3, 4）。

あれ、どこかで見たシステムそっくり!? そ、そうだ!! シミュレーション実習室と中央のコントロール室は、医師国家試験 USMLE step2 の Clinical Skills 試験会場の再現だ。これまで訪問したアメリカの医学部では、どこも立派なシミュレーションセンターがあり、臨床実習前、あるいは臨床実習中にシミュレータでトレーニングが行われている。

加えて12の小部屋がずらっと並んでいる。ここでは標準模擬患者（Standardized patients: SPs）を相手に、学生が予め設定されたシナリオに沿って医療面接と身体診察を行い、その時点で考え得る病態をあげ、鑑別するための検査計画、さらに治療計画を立案する。その過程が評価される仕組みになっている。



写真3 シミュレーション教育設備



写真4 シミュレーション実習コントロール室 (UCSF)

表2 クラークシップコース (UCSF の例)

2年次4月開始:

8必修コア・クラークシップ

外科(8W)、内科(8W)、産科婦人科(6W)、家庭医学(6W)、小児科(6W)、精神科(4W)、神経科(4W)、麻酔科(2W)

±外科専門研修(2W)

以上を6～8週ブロックずつ教育病院で実習。教育病院は学生が選択(抽選)。明確な志望動機あれば適した病院へ。

3年次5月開始:

アドバンストコース

全学生: 内科の4Wサブインターンコース(より患者への責任が重い)、選択制のサブインターンコース

(外科、ER、小児科等)

自由選択診療科もあり、研究活動、海外実習などもあり

この評価システムは、12の小部屋でのSPsを対象にしたもので、2004年からアメリカ医師国家試験に導入された。この試験こそが臨床実習の推進に大きく貢献した。というのも、これが契機となって各医学部は施設・設備を整備して同じようなシステムを導入し、臨床技能教育を充実させるようになったからだ。

USCF 医学部の視察を終えて玄関を出た。ふと周りを見渡すと、パトカーが警戒していた。よく見るとパトカーには“UCSF POLICE”と書かれている(写真5)!! どうやら UCSF 専属の警官らしい。アメリカの大都会は物騒とは聞いていたが、大学が警官を雇っているのか!? 大学紛争が華やかだったおよそ50年前、東京医科歯科大学医学部附属病院は過激派学生に占拠され、病院と大学は閉鎖された。当時は大学の自治を謳い文句に、官憲が校内にあることなど、到底考えられず、警察が不法占拠に介入したのはずいぶん後のことだった。それがどうだ。UCSFでは堂々と構内に警官が駐在している。時代と場所の違いか?

さて、サンフランシスコ訪問では、有名なヨセミ

テ国立公園に足を伸ばすことにした。ヨセミテ国立公園へはサンフランシスコ市街から車で2時間ほど。公園の面積は約3,081平方キロメートルで、実に東京都の約1.4倍という広さだ。

ヨセミテ渓谷のスケールは大きく、白い巨大な花崗岩の絶壁が聳え、流れ落ちる多くの巨大な滝、谷や木々の間を流れる澄んだ大小の川、ジャイアントセコイアの巨木の林などなど、見応え十分。有名なエル・キャピタンは、花崗岩の絶壁である(写真6)。よく見れば、岸壁をよじ登るクライマーがいる。そのさまは、スカイツリーを登る蟻のようだ。クライマーが頂上に登るには1日では無理で、一般的には4~6日もかかるとか。

UCSF 視察で成果を得たご褒美は、夕食だろう。フィッシャーマンズワーフで名物のクラムチャウダー、カニ料理を味わうべく、これまた名物のケーブルカーに揺られてゆっくり移動(写真7)。陽気な黒人の運転手が、鼻歌を歌いながらギヤを調整。坂道を下って、フィッシャーマンズワーフの入り口へ(写真8)。

湾内には、オットセイの大群が湾に浮かぶ板の上



写真5 UCSF パトカー



写真7 サンフランシスコ名物ケーブルカー



写真6 ヨセミテ国立公園



写真8 Fisherman's Wharf (サンフランシスコ)

で思い思いのポーズでノンビリ。と書いてくれば、のどかで良いと思われるだろう。が、有り体に書くと、実は生き物ゆえの排泄物が当然にある。馬よりもデカイ排泄物があちこちにあり、イヤハヤ、その匂いときたら。

そんな匂いにもめげず、湾を望むレストランでカニを食べた。日本式の塩茹でではないものの、カリフォルニアの地ビールにマッチして、まずは美味しかった。

⑥スタンフォード大学

東のハーバード、西のスタンフォードと、アメリカの大学で双璧をなす、2022年大学世界ランキングで第3位を誇るスタンフォード大学（2021年は第2位）を訪問した^{2,3)}

スタンフォード大学は、当時のカリフォルニア州知事で、かつ大陸横断鉄道のセントラルパシフィック鉄道創業者だったリーランド・スタンフォードによって1891年に創立された。大学のモットーは“Die Luft der Freiheit weht.” どういうわけかドイツ語で

掲げられている。大学のミッションは、人種、性別、民族や宗教などを問わずに、優秀な人材を集め、教養がありかつ社会に役に立つ人材を育成することにあるという。

サンフランシスコ市内からは約60km南東にあるシリコンバレーの中心へとCaltrainで向かった。Palo Alto駅で降り立つと、大学への無料シャトルバスが待っていた。医学部の正面では、噴水の湧く美しい庭園が出迎えてくれた（写真9）。大学自体はおよそ993万坪というから、想像を絶する。キャンパスには、講義室などの建物だけでなく、スタジアムやら広場やら、極めつけに教会まである（写真10, 11）。カリフォルニアの澄み切った青い空に、緑の芝生が映える。

2008年に最初に訪問した時は、丁度医学部創設100周年だった。構内のあちこちに記念旗が飾られ、お祝いムード一色だった（写真12）。

医学部長に会い、教育プログラムを訊ねた。4年間の教育期間のうち、まずは基礎医学を学び、次の



写真9 スタンフォード大学医学部玄関



写真11 スタンフォード大学構内



写真10 スタンフォード大学キャンパス



写真12 スタンフォード大学100周年記念キャンペーン（医学部長室脇）

で臨床医学、さらに3年生から臨床実習を行うという、当時の主流だったアメリカ医学教育課程そのものだった。

が、驚かされたのは、4年で卒業する学生はほんの1/3程度で、約2/3は5年間で卒業するとの説明だった。意外な話に、つい、「それは進級が厳しく、留年者が多いのか？」と野暮な質問をぶつけてみた。医学部長は即座に首を横に振り、「イイイイ、在学中に工学部や経済学部などに行き、そこで学修して学識の幅を広げるのだ」と。卒業時にいわゆる double degree を取得しているわけで、日本のいくつかの医学部でも採用している MD-PhD コースの先駆けといったところか (図2)。7～8年かかる MD-PhD にも12名ほどが参加しているようで、研究実績が上がるのも頷けよう。

さらに驚いたのが入学者選抜。当時のスタンフォード大学は一学年80名定員だったが、名門大学への入学を目指して7,000名ほどが応募してくる (表3)。もちろん医学部入学共通試験としての Medical College Admission Test (MCAT) の成績が重視されるが、それよりも建学の精神に則り、多彩なバックグラウンドを持ち、motivation の高い学生を入学させたいとのことだった。

そこで、試験の成績に現れない人間性や motivation などは、面接で確認するのが第一。そのために入学者選抜専任の副医学部長がおり、書類選考で絞り込んだ志願者を訪ね歩き、一人一人面談して人物評価するとのことだった。

そんな貴重な経験談を聞こうとしたが、プロ野球のスカウトよろしく、副医学部長は年中面接のため

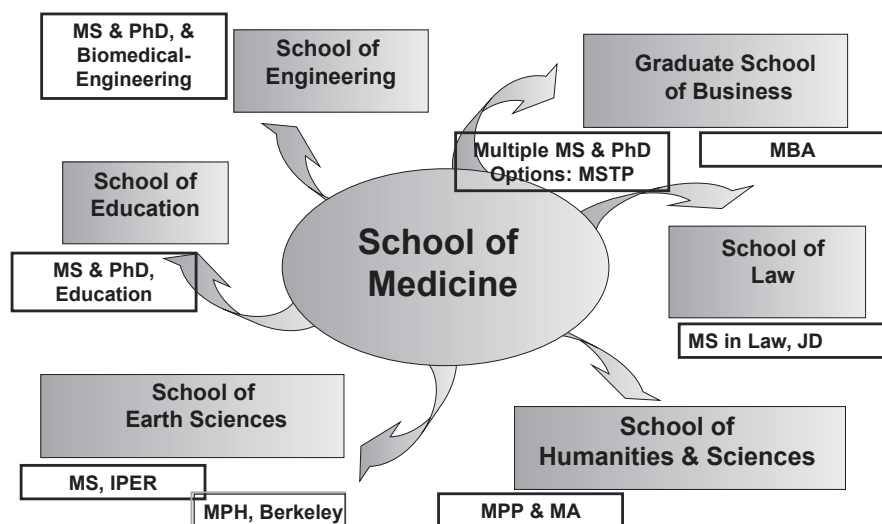


図2 スタンフォード大学の複数学位取得

表3 スタンフォード大学の入学者選抜

- 約7,000名が応募(スタンフォード大学、ハーバード大学、エール大学、ホプキンス大学、MITなどの出身者が多い)。
- MCAT(およそ30/45以上) + 学業成果(GPA) + 推薦状
- 書類審査で約半数に絞る(点数付けでなく、可か不可か)
- 約半数について面接：入試担当専任学部長が面接(7月から翌4月までかかる)。個性を尊重し、多様な学生を受け入れる(パラリンピックメダリスト、日本人など)。

入学志願者に対するチェック項目

- ・ 学業成績
- ・ 研究・学習活動(第2学位取得者)
- ・ 知識の深さ、独自性、創造能力、ボランティア精神
- ・ 地域貢献、医療への参加活動、スポーツ、芸術、職業歴
- ・ 指導力、独創力、創造力
- ・ 旅行経験

に飛び回っているとかで、ついぞ拝顔できなかった。志願者から400名ほどに絞り、その上で医学部教員が慎重に面接して入学者を決定する仕組みになっている。なお、2016年の卒業生は85名とのことで、学生定員は僕が訪問した当時とさほど変わっていないようだ。

ついでに、医学部長に「シミュレーションセンターはどこ？」と尋ねたところ、シャベルカーが土を掘り起こしている工事現場に連れて行かれた。驚いたような表情の僕を見て、医学部長はにんまりしながら胸ポケットからボールペンをやお取り出し、マジシャンのように、ボールペンの側面を引っ張った。すると、ボールペンから飛び出したのは、シミュレーションセンターの完成予想図だった(写真13)。総床面積12万フィート(約11,148m²)、総工費が9,020万ドル、2010年3月竣工とかで、おそらく寄付金集めのために資産家に配っているのだろう。

2年後に再度訪問したところ、工事現場だった場所に、デーンと医学教育専用の5階建て Lika Shin

(李嘉誠)ビルディングが建っていた(写真14)。李嘉誠ビルは香港財閥の李嘉誠⁴⁾によって多額の寄付を受け、医学教育に特化した施設として建てられたとか。講義室、チュートリアル室、シミュレーションセンターなどが整い、学生が学びやすい環境だ(写真15, 16)。シミュレーションセンターはほぼ2,000平方メートルで、設備も十分に整った素晴らしい施設だった。ボールペンの効果があったに違いない。

李嘉誠ビルの最上階には「教員立ち入り禁止」の看板が。はるばる日本くんだりから来たと言って、通りすがりの学生に声をかけて無理矢理入室させてもらった。その階は学生専用で、ジム、ホッケーゲーム、PCルームなど、娯楽施設が整い、教職員の目を憚ることなくリラックスできるようになっていた(写真17)。

羨ましくなって学生について、「イ〜な」なんて感想を述べたところ、「だって学費が高いんだから当然ですよ。」と切り返された。因みに2021年の学費



写真13 医学部教育棟新築キャンペーンのボールペン



写真15 チュートリアル室



写真14 Lika Shin ビルディング



写真16 シミュレーションセンター



写真 17 学生用娯楽室 (Lika Shin ビルディング内)

は 84,996 ドルで、生活費等を入れるとほぼ 135,376 ドルほどとか。僕が学生の頃 (50 年も前だが…) の学費が年 12,000 円だったことを考えると、ぐうの音も出なかった。

7. シカゴ

前々回に紹介したように、アメリカでは全米医学学校協会 (American Association of Medical Colleges: AAMC) の総会が、医学教育学会の形式で、毎年秋に開催される。アメリカの最新医学教育に触れることができる絶好の機会であり、僕も日程さえ合えば参加するようにしている。

2014 年には AAMC 総会がシカゴで開催された (写真 18)。シカゴは東京とアメリカ東海岸都市やカナダへの中継地点として立ち寄ることはあるが、市内を訪問するのは初めてだった。会議はホテル Hyatt Regency で盛大に行われ、朝の 7 時頃から夕方 6 時までみっちりと会議が組み立てられ、アメリカにおける医学教育の現状と展望をしっかりと理解することが



写真 18 AAMC 総会会場 (シカゴ)

できた。

AAMC は総会とはいうものの、グループ討論が主体になっている。僕が会場を移動するべくエスカレーターに乗ろうとすると、下から ECFMG の Cassimatis 会長が上ってきた。彼は僕の顔を見るなり、「ヒマか？」と声をかけてきた。当然ながら異国の地で予定などない。それを見越して、彼はシカゴ随一のイタリアレストランでのディナーに誘ってくれた (写真 19)。ディナーは ECFMG 主催で、アメリカ国内だけでなく、さまざまな国の医学教育関係者が参加しており、ECFMG が投げかけた“黒船問題”の話に花が咲いた。

さて、5 日間の AAMC 会議期間中、中日はエアポケットに入るが如く、小休止の合間があった。そこで、メトロポリタン美術館、ボストン美術館と並んでアメリカ三大美術館の一つであるシカゴ美術館を目指した (写真 20)。アメリカの美術館はどこも大きい、シカゴ美術館もとてつもなく大きい。ゴッホ、セザンヌ、マネ、モネ、ルノアール、ロートレック、レンブラント、ピカソ、イサム・ノグチなど、



写真 19 AAMC 総会中の ECFMG 歓迎ディナー



写真 20 シカゴ美術館



写真 21 シカゴ市内



写真 23 シカゴ市内 (雲の門)



写真 22 シカゴ市内にあるアート作品

古今東西の名作約 3 万点以上を集めており、3 時間だけではとても回りきれなかった。

シカゴはニューヨークとロサンゼルスに次ぐ第 3 の都市であるが、アートの街とも言われるほど、街中にアート作品があふれている (写真 21, 22)。至るところに有名デザイナーたちの建築物や、ミレニ

アム・パークの面白いアートモニュメントなどがあり、楽しく街歩きができる。美術館から AAMC 会場への途中にも、巨大オブジェである「雲の門」が威容を誇っていた (写真 23)。

シカゴでもアメリカの医療教育事情をしっかりと見聞でき、さらにアート作品、ステーキなどアメリカ料理を堪能することができた。

教育制度、文化、ボランティア精神など、まだまだアメリカから学ぶことは多い。

文 献

- 1) <https://www.ucsf.edu/> アクセス 2021.09.09
- 2) <https://www.stanford.edu/> アクセス 2021.09.09
- 3) <https://www.topuniversities.com/university-rankings/world-university-rankings/2022>、アクセス 2021.09.09
- 4) 奈良信雄：「グローバル化時代の医学・医療事情」世界の医学部を巡って(13)、Ⅱ アジア編 香港・中国。モダンメディア 67(9): 380-387, 2021